

研究と教育を楽しむ

藪内直明

平成30年の4月1日付で着任いたしました藪内直明と申します。私は平成18年3月に大阪市立大学で博士（工学）の学位を取得しました。その後、米国のMassachusetts Institute of TechnologyのProf. Yang Shao-Hornのグループで二年ほど博士研究員をしていました。偶然ではありますが、今年の6月にProf. Shao-Hornが横浜国立大学を訪れており、本学における私の新しい研究室（固体エネルギー化学研究室）を紹介する機会を得ることができました。ボストン時代は研究に加え、NBAの試合とカルフォルニアワインを嗜みました。また、日本への帰国後は東京理科大学、東京電機大学を経て、本学で研究と教育を行う機会を頂きました。前職の東京電機大学では4年間という短い期間ではありましたが、様々なキャラクターを持った学生と一緒に研究をしていたこともあり、こちらも教育者として大きく成長する機会となりました。関東で暮らしはじめ、気がつく今年で十年目となり、今では関西弁も消えて隠れ関西人として生活しています。

私はこれまでに固体化学・電気化学を中心として蓄電池材料の研究を行ってきました。学生時代は小槻勉先生に師事し、コバルト・ニッケル・マンガン系酸化物材料の研究に取り組んでいました。現在では市販電池の正極材料として実用化されており、研究をしていた当時は全く想像すらしていませんでしたが、当材料を利用した電気自動車が世界中の様々な都市で走行しています。東京理科大学では駒場慎一先生とともにナトリウムイオン電池用の電極材料



の研究に取り組みました。こちらの研究はまだ実用化には結びついてはいませんが、将来の自然エネルギーの活用へと向けて重要な蓄電池系になると期待し、本学に異動後も基礎研究を続けています。私が研究者として今後、二十年かけて取り組みたい課題が自然エネルギーのさらなる活用と”脱”化石燃料依存社会の実現（へ向けた一歩の確立）です。そのために未来の蓄電池が果たせる役目は大きいと思っています。

このような壮大な目標を実現するためには、非常に長く・険しい行程を進む必要がありそうです。このような課題に腰を据えて真剣に取り組む一歩として、最近、横浜市内に家を購入しました。住宅ローンを払い終わる頃には75歳になっているようなのですが、その頃に、私が研究者・教育者として社会に果たせた役目がどの程度であったか、改めて振り返りたいと思っています。今はまだ、後ろを振り返らず、これまで以上に研究と教育に真剣に取り組むしたいと思います。どうぞ宜しくお願い申し上げます。